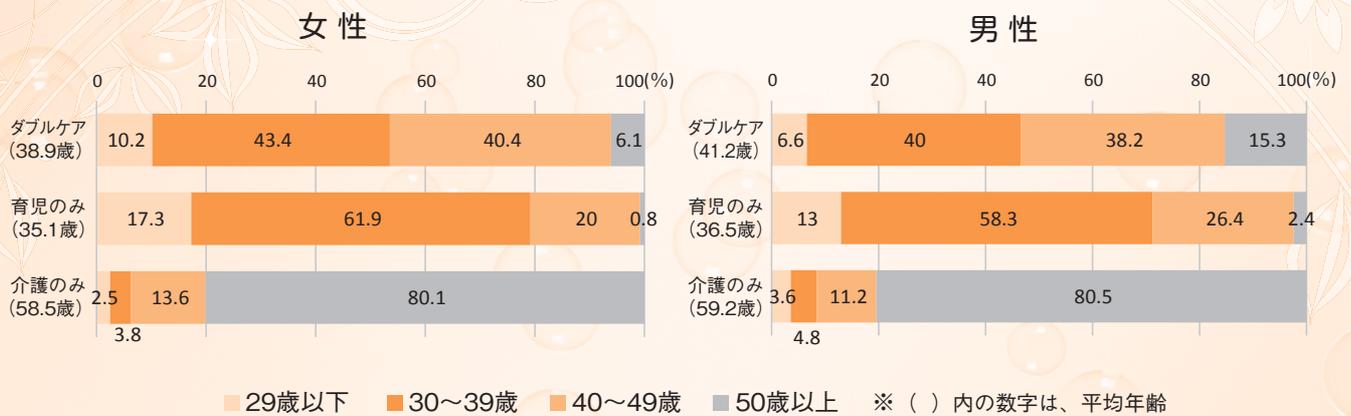


ウィルプラス

WILL PLUS No.87 2016

公益財団法人 あいち男女共同参画財団

ダブルケアを行う者の男女別年齢構成



ダブルケアを行う者は、男女ともに30～40歳代が多く、全体の約8割を占めることがわかる。

出典：内閣府「平成27年度育児と介護のダブルケアの実態に関する調査報告書」をもとに財団が作成
http://www.gender.go.jp/research/kenkyu/pdf/ikuji_point.pdf

(備考) 1. 総務省「就業構造基本調査」平成24年より内閣府にて特別集計
 2. 「ふだん育児をしている」「ふだん介護をしている」の両方を選択した者を「ダブルケアを行う者」として集計

特集 「ダブルケアの現実 ～介護と子育てが同時にやってくる～」

映画祭御礼	3
団体紹介	4
海部・津島女性の会	
女性の活躍促進 わが社の女性管理職紹介コーナー	5
アイカ工業株式会社	
小林クリエイティブ株式会社	
情報ライブラリー Book Cafe	6
ダブルエスプレッソ～介護と育児の両立	
ウィルおじさん	7
ウィルあいち案内	7

ダブルケアの現実

～介護と子育てが同時にやってくる～

最近になって耳にするようになった「ダブルケア」。国もようやく実態調査に乗り出しました。様々な事例から見えてくる、ダブルケアの問題点や課題を、相馬直子先生にお伺いしました。

◆ ダブルケア（ケアの複合化）とは？ ◆

ダブルケアという言葉は、育児と介護の同時進行という意味であり、晩婚化・晩産化と少子高齢化により、「ダブルケア（育児しながら介護）」に直面する人の増大が予測されています。

また、メンタルに問題を抱える夫のケアと子育て、障がいを持つ子どもと障がいを持たない兄弟の複合的ケアなど、「家族や親族等、親密な関係における複数のケア関係と複合的課題」というように、「ケアの複合化・多重化」としてとらえられています。

介護・子育ての縦割り行政のはざままで、ダブルケアラーの孤立や困難な実態があり、世帯構成、就業状況、介護・子育ての状況、介護・子育てのサービス利用状況、親子・夫婦関係、友人や近隣ネットワークなどで、多様なダブルケアパターンが調査から明らかになってきました。

私たちの最新の調査（神奈川ワーカーズ・コレクティブ連合会との合同調査）によれば、自分の子どもの育児と介護のダブルケア（図1）、孫支援と介護のダブルケア（図2）ともに、“過去に経験した”“現在直面中”“数年先直面する層”を含めると、3割を超えています。

また、ダブルケアでは、体力的・精神的にしんどい、

仕事との両立が厳しい、といった大きな負担感となっています（図3）。

次に、事例からダブルケアの実態を考えてみましょう。

「共働きダブルケアラー」

3人の息子を育て、認知症の義父を同居で介護しながら働いているAさん。夫は仕事で不在がち。下の2人の子どもは別々の保育園で、朝夕と2つの保育園をまわり、帰宅したら義父の介護をする日々。毎日が綱渡りで先行きが不安だ。行政の窓口も介護・子育てと縦割り制度のため非効率。

フルタイム就業、フルタイム介護であれば保育園の入所ランクは高くなるが、介護があるため就業時間が短くなっているAさんのような場合、保育園の入所ポイントが低い。少子高齢化時代、保育園の入所基準に、ダブルケアの視点が必要だ。

「ひとり親ダブルケアラー」

脳性まひで全介助が必要な末子を含む3人の子育てをしながら、認知症の母親を介護し、デイケアセンターで働くシングルマザーのBさん。父親が介護していたが母

図1

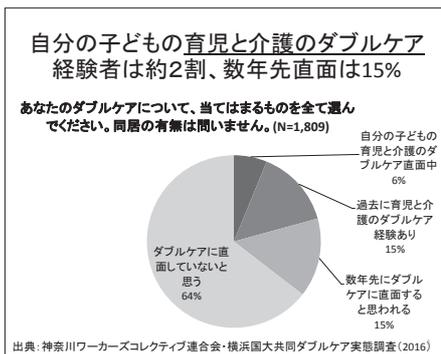


図2

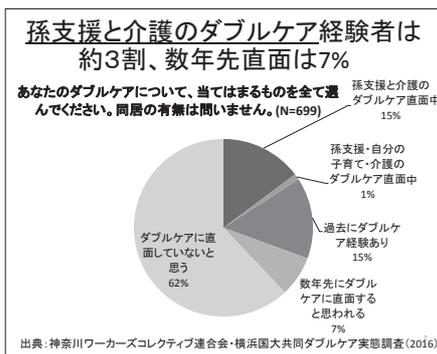
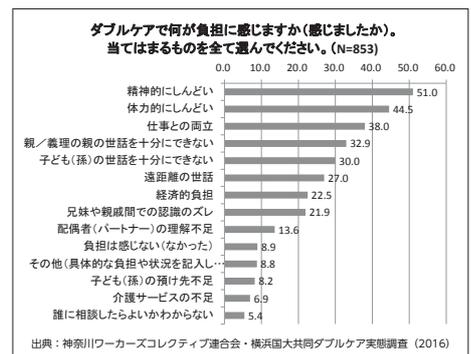


図3



親の介護拒否があり、Bさんが同居して主に介護している。就業と育児をしながら在宅介護を継続するのは難しく、特別養護老人ホームへの入居を申請したが、同居しているので要介護度5*でも入所は難しいといわれた。また障がい児支援策の不足をBさんは強く訴える。

「専業主婦ダブルケアラー」

ダブルケアで忙しく、子育て支援センターに行けないCさん。長男を小学校に送り出し、2歳の次男をつれて近居の実家へ行く。母親が仕事の間、脳梗塞の後遺症で半身まひと軽い認知症がある父親の日常の手助けをする。父親をもっと支えたいが、一時保育も満杯で利用できない。友人で介護をしている人はいない。介護の話を少ししたら、幼稚園で声をかけられなくなった。ママ友に介護の話はできず、どこに相談したらいいかわからず、すべてを一人で抱えてきた。

「中年独身ダブルケアラー」

ケアの複合化の視点から、介護、ひきこもり、家庭内暴力への支援事例が挙げられる。要支援2の実母(80歳)と同居するDさん(次男・50歳)は、学校を卒業後、職を転々とし、長らくひきこもり状態であった。実母の物忘れが始まる中、Dさんのかねてからの家庭内暴力が問題となり、Dさんは精神科に緊急措置入院となった。その後、Dさんは、発達障がいと診断を受けたが、自分が支援の対象であることを受け入れ、現在は精神科のケアを受けながら作業所で働くとともに、実母の介護をしている。

◆ダブルケア(ケアの複合化) 視点の重要性 ◆

私たちの調査研究では、「ダブルケアに関わり、ダブルケアの負担が高い層」に焦点が当たりがちです。

ダブルケアの負担を抱える層がある一方、ダブルケアを「必要」としているが、「ケア不在」となっている層があります。子どもと高齢者両方へのネグレクトや、前述のDさんの事例のように、本来は多重ケアの課題があるが、制度につながらず、「ケア不在」のまま放置されているダブルケア(ケアの複合化)ケースの実態把握も急務です。

◆自治型・包摂型・多世代型地域ケアシステム構築に向けて ◆

介護支援現場では、相談シートに、「ダブルケア(ケアの複合化)」の視点を入れ、ダブルケア事例での、個別ケア会議を開いて支援する動きがあり、子育て支援現場でもダブルケア勉強会の開催が続いています。

また、ダブルケアラー同士が悩みを共有したり共感する「ダブルケアカフェ」の開催や当事者向けのハンドブックづくり、ダブルケアサポーター養成講座開発など、当事者の支え合い活動や現場からの動きが広がろうとしています。当事者をまん中とし、地域を巻き込んだ「自治型・包摂型・多世代型地域ケアシステム」がダブルケア(ケアの複合化)時代には求められます。

どのようなダブルケアケースがあるのか、それぞれの現場でダブルケア(ケアの複合化)の視点で考えてみてほしいと思います。

*要介護度とは

介護保険制度を利用するうえでの介護の度合い。1～5段階に分かれ、数字が大きくなるほど支援が必要。



相馬直子 さん

(横浜国立大学大学院国際社会科学研究院准教授)

2005年東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻 国際社会科学博士課程単位取得満期退学。日本学術振興会特別研究員を経て2007年より現職。「ダブルケア」についての調査・研究を英国ブリストル大学の山下順子上級講師と共に進めている。著書に『子育て支援と家族政策：家族主義的福祉レジームのゆくえ』(2013)、「The Double Responsibilities of Care in Japan: Emerging New Social Risks for Women Providing both Childcare and Care for the Elderly」(2015、共著)など。

御礼！あいち国際女性映画祭2016

9月7日（水）から9月11日（日）まで開催した今年の映画祭は、1万3千人を超える方々にご来場いただきました。ウィルあいち会場、半田市会場、弥富市会場、愛知県青年の家会場（岡崎市）に足をお運びいただいた皆様、本当にありがとうございました。

華やかなゲストも話題に

今年も国内外から多数のゲストをお呼びし、貴重なお話を伺うことができました。特に、オープニングは『火Hee』の監督・脚本・主演を務めた桃井かおりさん、また最終日は『母と暮せば』の吉永小百合さんと、華やかなゲストに映画祭を一層盛り上げていただきました。海外からもパキスタン、フィリピン、マレーシアのアジア各国から3名の監督にご来場いただき、映画への想いを熱く語っていただきました。

フィルム・コンペティション（長編フィルム部門・短編フィルム部門）の結果発表

昨年からスタートした長編フィルム部門と今年で5回目となる短編フィルム部門からなる「フィルム・コンペティション」を実施し、グランプリほか各賞を決定しました。

<長編フィルム部門>

◆グランプリ 金のコノハズク賞 『海へ 朴さんの手紙』（日本/2016年/70分）監督：久保田桂子

<短編フィルム部門>

◆グランプリ 金のカキツバタ賞 『私は渦の底から』（日本/2015年/27分）監督：野本梢

◆準グランプリ 銀のカキツバタ賞 『The silence of Eunhye』（韓国/2015年/14分）監督：パク・メファ

◆観客賞 『だんらん』（日本/2015年/18分）監督：生見司織

国連広報センター連携企画

2014年から実施している「国連広報センター連携企画」では、ドキュメンタリー映画『わたしはマララ』の上映と、「イスラムにおける女性たちについて、知ろう、考えよう」をテーマとした講演を行いました。講演では、同志社大学大学院教授の中西久枝さんによるゲストスピーチの後、名古屋大学法科大学院外国人研究員のアミロバ・ナルギザさん及び国連広報センターの根本かおる所長に現状レポートをしていただきました。

会場からも多くの質問があり、イスラム社会の関心の高さが伺えました。そのほか、会期を通して、国連が制作した10本のドキュメンタリーショートフィルムを上映しました。

「女性の活躍、わが社のチャレンジ ショートフィルム2016」

映画祭期間中毎日、企業における女性の活躍やそのための仕組み、環境整備などを紹介したショートフィルムを上映しました。これらをまとめたDVD（26分）は、ウィルあいち情報ライブラリーで視聴でき、貸出しもいたします。

【参加企業】 アイシン精機株式会社

東海東京フィナンシャル・ホールディングス株式会社

来年、2017年の映画祭会場で皆様とお会いできますように！

【問い合わせ先】

あいち国際女性映画祭事務局

〒461-0016 名古屋市東区上笠杉町1番地

（公財）あいち男女共同参画財団企画協働課内

電話 052-962-2520



フィルム・コンペティション授賞式の様子



このコーナーでは、県内で活躍する団体にスポットを当て、その活動をご紹介します。今回は、「海部・津島女性の会」をご紹介します。

❖ 海部・津島女性の会 ❖

■ 設立経緯と、これまでの活動

海部・津島女性の会は1986年（昭和61年）に発足、今年設立30周年を迎えた歴史のある団体です。あま市・津島市を拠点に男女共同参画社会の実現を目的に行政と協働し、地域のために活動しています。活動地域は7市町村の広域に渡りますが、会員相互が連携して活動するとともに、愛知県女性地域実践活動交流協議会に会として参加しています。

当初、70名いた会員も48名まで減少し、行政からの補助金もなくなり厳しい状況ですが、初代の立役者（まもなく80歳を迎える方！）は、今なお仕事をしながら地域の役員として活躍しています。他にも、「手に職を持たない女性は就職先がない」と言われこの地に嫁いできた方が、海部・津島女性の会では力を発揮し、立派に活動されています。過去30年の間には会としても大変な苦労がありましたが、会員の協力のもと、今日に至っています。48名の中には素晴らしい人たちがたくさんおり、地域のために活動を進めています。

■ 平成28年度会員組織

・海部・津島女性の会の構成（4ブロックからなる）

津島市、大治町	10名
弥富市、蟹江町、飛島村	14名
あま市	10名
愛西市	14名



■ 今後の目標と課題

今年度の会のテーマは、“女性の自立に向けて”です。地元の良さを再発見する学習会を開催したり、様々な男女共同参画セミナーを受講し、講師の方から学んだ女性の参画のあり方などから、夫を主人と呼ばず、パートナーと言い換えることを実践したりしています。それでも子育て・両親の介護など、家庭の内外を問わず女性に負担がかかります。また、会員も高齢化していますが、会として集まる時は、「健口、健幸」、つまり“美しいものを見て、美味しいものを食し、楽しくコミュニケーションをはかること”を大切に、今後も地域の活性化を図っていききたいと思っています。



問い合わせ先

海部・津島女性の会 代表：八木

電話／ 0567-28-2762

女性の活躍促進 わが社の女性管理職紹介コーナー

アイカ工業株式会社

当社では女性の活用を自社が成長していくための経営戦略であると捉え、2012年に女性の視点を取り入れたモノづくりに取り組む「女性目線の商品開発プロジェクト」を、2013年に女性が活躍できる環境づくりに取り組む「女性活躍推進プロジェクト」を立ち上げました。



建装・建材カンパニー
生産統括部本社工場
生産第一課リーダー

坂井 久仁江さん

生産部初の女性管理職として

女性だからこそ今までにない発想・展開ができるかもしれないと前向きに捉えています。産休・育休に関しては、職場全体で歓迎ムードです。これも先駆者がいたからこそ今の今だと思いますので、この流れを大事に職場環境を作っていきたいです。

家庭と仕事を両立する部門員も増えてきましたが、家庭、職場、両サイドの協力があってこそ成り立っていると思います。どちらか片方だけが成立していても長続きしませんので、職場の上司として急な休みや時短にも対応できる体制を心がけています。

現在も同僚や後輩から学ぶことが多々あります。「自分の基準で物事を見ていたら発見も向上もない」と考え、今後も職場改革を進めていきたいと思っています。

小林クリエイト株式会社

女性管理職登用のためには、土台となる環境や風土の変革が大切です。当社では、管理職・女性社員の意識啓発や男女問わず柔軟な働き方が選択可能な環境・制度の構築、若手・中堅社員のキャリア育成支援を進めています。



営業本部 販売促進部
販売管理課
エキスパート

松本 千春さん

これまでに心がけてきたこと

現在、営業本部の管理業務を担当し、営業支援社内システムの導入や営業管理職のマネジメント支援などを行っています。営業本部は会社で一番の大所帯ですが、上司に恵まれたこともあり特に不安もなくこれまでやっていくことができました。振り返ってみると、自分に足りないことを勉強するなど常に向上心を持って取り組んできたこと、色々な場面で多くの人の話を聞くように心がけてきたことが今に活かされているな、と感じます。上司・部下どちらかの意見に偏らず、「常にぶれない自分の考えを持つこと」も大切にしてきたことですね。これからキャリアアップを目指す女性の皆さんには、何事にもチャレンジして、色々なことを学んでほしいです。そこで得られた多様な視点や考え方は、管理職の立場になったときに、きっと活かせると思います。

公開講座のご案内「あいち女性連携フォーラム公開講座」

働き方改革 ～多様性を実現する柔軟な働き方とは～

講師 田澤 由利さん (株式会社テレワークマネジメント 代表取締役)

受講者募集!!
託児付(要申込み)

情報通信技術等を活用し、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方である「テレワーク」について、『在宅勤務が会社を救う』の著者で、テレワーク推進の第一人者である田澤由利さんにお話をいただきます。

日時 平成29年3月8日(水) 14:30～16:30

定員 100名

会場 ウィルあいち3階 大会議室

申込締切 2月24日(金) 必着

受講料 600円

問い合わせ先 (公財) あいち男女共同参画財団企画協働課

対象 男女問わず

電話 052-962-2512

情報ライブラリー-Book Cafe

ダブルエスプレッソ～介護と育児の両立

ライブラリーBookCafeにやって来たウィルおじさんとあい子さん



あい子さん 「今日はなんだか苦いコーヒーが飲みたい気分なの。」
 おじさん 「それならこれはどう？ダブルエスプレッソ。」
 あい子さん 「いいわね。ああ、ダブルといえば、あなた知ってる？話題のダブルケア問題。」
 おじさん 「子育てと親の介護が同時進行になることだっけ？」
 あい子さん 「そうそう。内閣府の調査結果では、ダブルケアの負担はやっぱり女性に偏っているんですって。」
 おじさん 「男性の介護者も増えているって、ときどき見るけどね。」

介護、育児と仕事や家庭の両立は、身近な問題と感じている方も多いのでは。情報ライブラリーの本で、あなたもその時に備えませんか。

● 介護と育児の両立 ●

『人間だから、一緒だよ。』
 介護家族と、子育てママの共通点』
 石井英寿著 (パレード)



自分の過去とつきあう子育て。自分の未来とつきあう介護。それは、ともに人間の基本に関わることだ。千葉県の民家で赤ちゃんからお年寄りまでの居場所『いいいさん家』を開所した著者が感じた、育児と介護の共通点。介護に奮闘する家族、子育てママへの応援エッセイ。

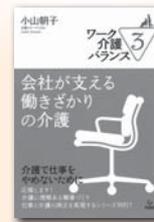
『長いものに巻かれるな！』
 苦労を楽しみに変える働き方』
 渥美由喜著 (文藝春秋)



会社員、子育て、家事、介護、看護…7Kライフを送る著者。ダイバーシティ・コンサルタントとしての数多くの事例研究と、著者自身が数々の困難を乗り越えた経験から導き出した、実践的な仕事術を紹介する。

『ワーク介護バランス 1・2・3』
 小山朝子著 (旬報社)

介護と仕事を両立したい、介護に専念したい…さまざまな思いに直面するワーキングケアラーに。1巻では制度の基礎知識や心得、2巻では介護にあたってのコミュニケーション術、3巻では両立支援策を導入した企業の事例を取り上げる。



『ケアメンを生きる 男性介護者100万人へのエール』
 津止正敏著 (クリエイツかもがわ)



男女問わず、誰もが介護を担う時代。「男性介護者と支援者の全国ネットワーク」発足に関わった著者が、男性介護の実態を紹介するとともに、家族と暮らしの「型」がどう変化したか、介護は暮らしにどんな意味をもつのかを検証する。

あい子さん 「介護と子育て、ダブルで得られる経験はどれくらい深いものかしら。このエスプレッソくらい？」
 おじさん 「人生が豊かな味わいになりそうだね。でも、一番活躍できる30、40代にダブルケアに追われるのは、もったいない。」
 あい子さん 「介護離職ゼロ、早く実現しなくちゃね。」



■ 問い合わせ先／ウィルあいち情報ライブラリー 電話 052-962-2510

◆ウィルあいちフェスタ2016御礼◆

11月26日(土)にウィルあいちで開催しました「ウィルあいちフェスタ2016」。近隣、遠方を問わずたくさんの方々にご来場いただき、ありがとうございました。また、様々な企画でご参加いただきました23団体の皆様、お疲れ様でした。フェスタでの出会いや体験によって交流の輪がより一層拡がり、それが男女共同参画の促進につながっていけば、企画したスタッフ冥利に尽きます。

この場をお借りして、御礼申し上げます。

■ 問い合わせ先／(公財) あいち男女共同参画財団 企画協働課 電話 052-962-2512

ウィル おじさん

絵:ナハ



編集後記

今回の「ウィルプラス」はいかがでしたか？あなたのご意見・ご感想を（公財）あいち男女共同参画財団企画協働課までお寄せください。

「ウィルプラス」は、県内の図書館や女性センター等で配布しています。ホームページからもご覧いただけます。また、定期読者も募集しています。詳しくは電話でお問い合わせください。

愛知県女性総合センター（ウィルあいち）のご案内

開館時間 9：00～21：00

■情報ライブラリー利用時間 9：00～19：00

休館日 年末年始（12月29日～1月3日）、施設点検日（年10回程度）

■情報ライブラリー休業日

上記の他、毎週月曜日（祝日の場合は翌日も休業）、祝日（土日は除く）、整理期間

所在地 〒461-0016 名古屋市東区上堅杉町1番地

問合せ先 <http://www.will.pref.aichi.jp/>

■施設利用受付 指定管理者 コングレ・愛知グループ（ホール・会議室・宿泊室）

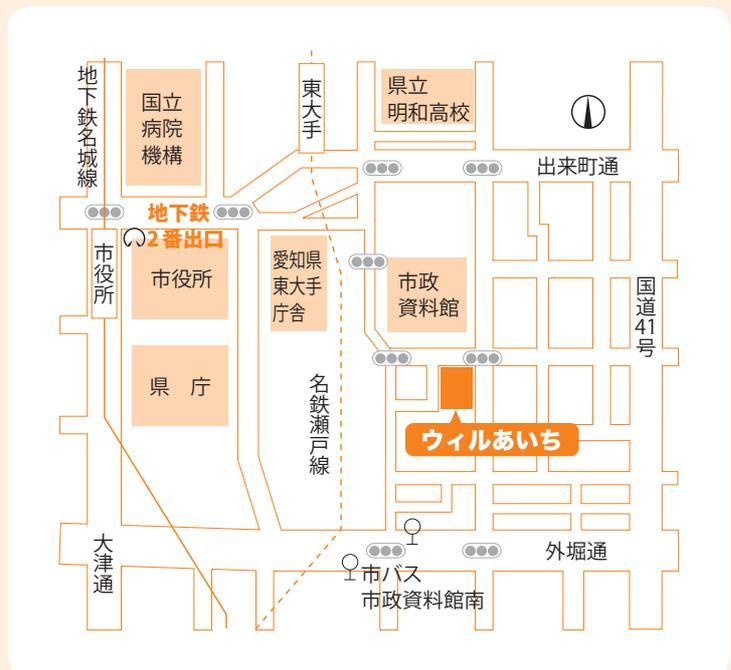
電話 052-962-2511

■情報ライブラリー

電話 052-962-2510

【交通のご案内】

- 地下鉄名城線「市役所」駅2番出口東へ 徒歩約10分
- 名鉄瀬戸線「東大手」駅南へ 徒歩約8分
- 基幹バス、名鉄バス「市役所」下車東へ 徒歩約10分
- 市バス幹名駅1「市政資料館南」下車北へ 徒歩約5分
- 駐車台数に限りがありますので公共交通機関の利用にご協力ください。（駐車場有料）



ウィルプラス No.87 2016

編集・発行	公益財団法人あいち男女共同参画財団
住所	〒461-0016 名古屋市東区上堅杉町1番地 (愛知県女性総合センター内)
電話	052-962-2512 (企画協働課)
F A X	052-962-2477
財団 H P	http://www.aichi-dks.or.jp
発行	平成28年12月 (年3回/次号: 29年3月発行予定)